

# 時代の変化に適応しつつ 変わらぬ「感謝」の気持ち

企業版ふるさと納税で広川町に寄付いただいた企業から、今回はUJグループをご紹介します。

UJグループは、トラックなどの大型車の販売や買い取りなどを手がける「ウシトラ」、部品販売を手がける「ウシパーツ」、整備や架装などを担う「モリテイス」など5事業を展開し、このうち「ウシパーツ」と「モリテイス」は昨年広川インター西側へ本社を移転させるなど、広川町との結びつきが強い企業です。

物流需要の高まりから、毎年過去の売り上げを更新し、順調に発展しています。しかし、現在に至るまでには「苦労の連続だった」といいます。グループの創始者であり、会長を務める牛島豊さんに、これまでの歩みや広川町への寄付に込められた思いを伺いました。

## トラックではなく自動車解体で起業

牛島さんは、昭和54年に自動車解体業を始めます。廃車になった普通車や軽自動車を解体し、鉄スクラップや中古部品として販売していました。当初、トラックを扱うつもりはなかったといいますが、あるとき、大手トラック

メーカーに勤める友人から「トラックの廃車を引き取らないか」という話を受けます。当時、トラックの取引価格は、普通車の10倍。当初はためらいもありましたが、思い切って2台購入しました。ところが驚いたことに、2台のトラックはすぐに買い手が付き、大きな利益が出たのです。「トラックの取り引きはまともだった投資が必要だが、ニーズはあるし、売れたときの利益も大きい」と手応えを感じました。

それからまもなく、突然の危機が牛島さんを襲います。昭和60年、急激な円高により鉄スクラップ価格が大暴落。収益の柱だった自動車解体業が、突如として立ち行かなくなりました。牛島さんはこのとき大きな決断をします。「これからはトラック一本に絞る」。

## 次々と立ちちはだかる壁 周囲の支えで一路邁進

突然の決断には、周囲からの反発もありました。特に、長く取り引きのあったディーラーからは、事業の継続を懇

願されました。その一つひとつに丁寧に対応しつつ、中古トラック事業への参入を試みますが、新参者がすぐに信頼を得られるほど、業界は甘くありませんでした。

このとき手を差し伸べてくれたのは、地元バス会社で役員を務め、大型車メーカーとの取引経験も豊富だった義父でした。義父の支えもあり、本格的に中古トラックの買い付け、販売を始めた牛島さんは、ここから仕事に没頭していきま

す。当時はまだ中古車のオークションなどはなく、中古車の購入希望者は多くの展示場に足を運び、実車を挟んでじっくり交渉するのが一般的でした。特に商用車であるトラックは、取り引きに不備があると、瞬く間に業界内に評判が広がり、信頼を失う恐れがありました。

牛島さんは大型車ディーラーでの買い取りから顧客への販売まで、自ら先頭に立って相手と向き合い、誠実に対応する姿勢を貫くことで、徐々に周囲からの信頼を得ていきます。

そして平成5年、国道3号



(株)ウシジマ 八女市室岡 377-10  
(株)ウシパーツ 広川町大字広川 1090-38  
(株)モリテイス 広川町大字広川 1090-21  
(株)スマートトラック 福岡市博多区祇園町 8-13 第1 プリンスビル 1F



沿いに、念願だったトラック展示場をオープン。多くのトラックが行き交う国道3号沿いは、中古車を探す顧客の拡大につながりました。平成15年には、さらに広い敷地へと会社を移転させ、販売だけでなく、整備やレッカーなどにも対応するようになり、平成22年には福岡インター近くにも進出。地道な努力がようやく実を結び、安定した経営を実現させました。

### 迫り来る時代の変化 若い世代にバトンタッチ

平成21年、東京から息子さんがUターンします。このころ、インターネット上ではさまざまなビジネスが飛び交い、中古トラックを巡るビジネスモデルも変革の時期を迎えていました。「これまでの事業を基盤として、インターネットを駆使した新たなビジネスを展開すべき」と主張する息子さんと、「実車を挟んで顧客と直接向き合うべき」と考える牛島さんでは意見に隔たりが始めます。

そんなとき、当時お世話になった人から、八女ライオン

ズクラブの会長職を引き受けてくれないかと打診されます。本業に専念できなくなることを懸念したものの「これも良い機会かもしれない」と牛島さんは打診を受け入れ、しばらく経営から距離を置くことにしました。

これが転機となり、会社は息子さんを中心として、次々と事業の変革や拡大に取り組んでいきます。新たな可能性に挑む姿を見た牛島さんは「新たな時代にフィットするには、若い人の力が必要だ」と、会社の経営を譲る決断をしました。その裏には自らも時代の変化に合わせ、勇気をもって変革させてきた経験があったからこそ、といえます。

### 時代を超えても 常に「感謝」を胸に

グループの会長となった今でも、ときには朝礼にも参加し、社員に負けないくらいの大きな声であいさつを交わします。これからの担う若い人たちへのメッセージをたずねると、それまでの柔和な笑顔が消え、真剣な表情で「私一人では何もできなかった。多

くの人が助けてくれたからこそ今がある。いくら時代が変わっても、周囲への感謝の大切さが変わることはない」と話されました。「広川町の皆さんにはとてもお世話になっている」と重ねて感謝を述べられ、寄付を通じて貢献できました。

いただいた寄付金は、広川町の地方創生事業に役立てていきます。町では、企業版ふるさと納税をしてくださる企業を募集しています。詳しくは、政策調整課（☎0943・32・0106）へお問い合わせください。



「まち子のおにわ」のコンテナハウスに寄付いただいた企業のお名前を掲載しています。

UJグループ

牛島 豊 会長

USHIJIMA YUTAKA

